

毎年の「大相撲藤沢場所」で 社員がこぞって献血に参加して

富士興業（株）

ふん着の
社会貢献

第2回

4月11日は、木々の新緑が映える好天に恵られました。神奈川県藤沢市の秋葉台文化体育館では大相撲春巡業の第18回藤沢場所が開

かれていました。60

00人で満員御礼となった会場では、

朝青龍、白鵬両横綱の土俵入りや幕内ト

ナメントの熱戦に沸い

ています。

その会場前の広場に、

日本赤十字社神奈川

県支部の協力で、5台

の献血車が集まり、献血

キャンペーンが開催されました。

藤沢、横浜、熱海

などに9ホールを運営する富士興業株式会社の社

員46人も駆けつけて、献血しました。この「藤沢場所献血キャンペーン」

は今年で4回目になりますが、富士

関根慎副社長は大声を上げて献血を呼びかけた



興業では第1回から毎年、ほとんどの社員が参加しています。関根貞雄会長は以前から寄付などは別に「なにか地域にも役立つ社会貢献」はないかと考えていました。たまたま場所の勧進元でもある(株)湘南営繕協会の最上重夫社長と日本赤十字社の活動を共にし、親しかったことから「場所献血」に全面協力を始めました。当日は小野義博同県副知事、海老根靖典藤沢市長も「人の命は人にか救えない。血液製剤への関心を深め、若い人の積極的な参加をお願いしたい」と会場で応援し、富士興業の関根慎副社長は自らマイクを握って市民に呼びかけました。



応援に来た「海の女王」娘たちを囲んで、献血に参加した富士興業の社員たち（中央は関根貞雄会長）

ひと口に献血といっても、なかなか厳しい条件があります。16歳～65歳の健康な人で、体重が男性で45kg以上、

が集まりました。これは県内の献血で10万mlをオーバーした初めてのケースとなりました。県内には医療機関が数多く、輸血を必要としている人が大勢いますが、献血者の数が年々減少している中で、貴重な貢献となりました。

関根慎副社長は「社員は積極的自発的に参加してくれるようになりました。熱海の営業所からも7人ほど駆けつけました。社員の中には、このキャンペーンだけでなく、これとは別に献血するものも出てきて、社会人としての自覚の向上にも役立っています」と今後もさらに活動を強化していく方針です。

献血は、病気の人のためだけでなく、従業員の健康にも役立っています。一週間後には、各自に血液の状態を示したデータが送られてきます。「年1回の社の健康診断にプラスした形になって健康維持」（青木正広営業第2課長）につながっている側面もあります。

女性は40kg以上が必要。前日7時間程度の睡眠をしっかりと、食事もしっかりと取ったかなどをチェックされます。**10万mlを超える新記録になった**地域の熱意によって、この日午前の3時間で345人が参加、そのうち301人分で11万6400ml（400mlを281人、200mlを20人）

この献血活動が社としても年間の大切なイベントとなり、「春は血液が不足するので大変ありがたい」（県赤十字血液センター）の言葉と合わせて、従業員には一石二鳥の日となっているようです。